

## 2022 年度までのマイクロプラスチック調査結果の概要

### 1 調査日（2022 年度）

（夏季）2022 年 9 月 28 日

（冬季）2023 年 1 月 13 日

### 2 調査地点

① 鶴見川・亀甲橋（左岸・中間・右岸）

② 帷子川・横浜新道下

④ 境川水系柏尾川・吉倉橋

※③大岡川・青木橋は 2020 年度まで実施

### 3 調査方法

「河川マイクロプラスチック調査ガイドライン」

（令和 3 年 6 月、環境省）に準じた方法

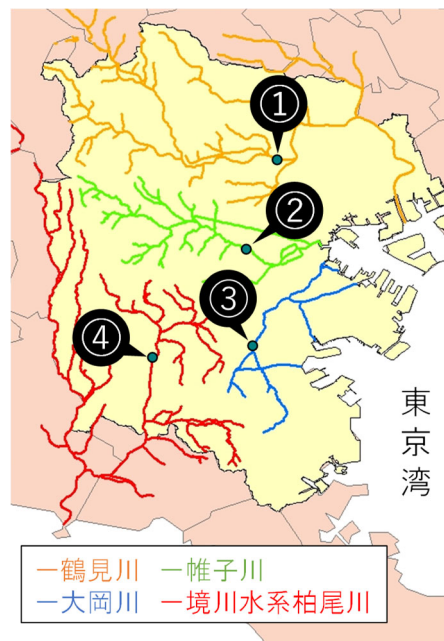


図 1 調査地点

### 4 調査結果

#### (1) 個数密度について

- ・ 鶴見川・亀甲橋、大岡川・青木橋、柏尾川・吉倉橋は、帷子川・横浜新道下と比べて、調査時による変動が大きい。
- ・ 鶴見川・亀甲橋は、他の 3 地点と比べて比較的大きい傾向にある。

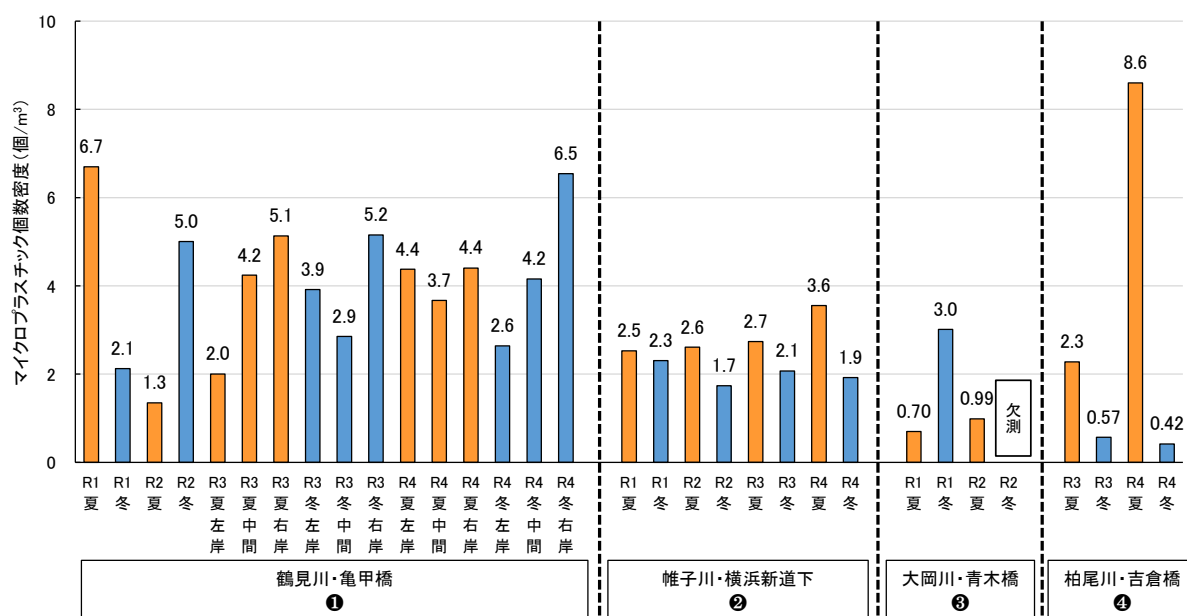


図 2 個数密度

## (2) 形状と材質について

- ・形状は、2019年度夏季（R1 夏）の亀甲橋を除き、すべての調査において、「破片」と「膜・シート状」で全体のうち7割以上を占めた。
- ・材質は、すべての調査において、ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリスチレンで全体のうち7割以上を占めた。
- ・材質別の「その他プラスチック」の内訳としては、ポリエチレンテレフタレート（PET）、ポリアミド（ナイロン）、ポリメタクリル酸メチル等のアクリル樹脂類などが主に採取された。

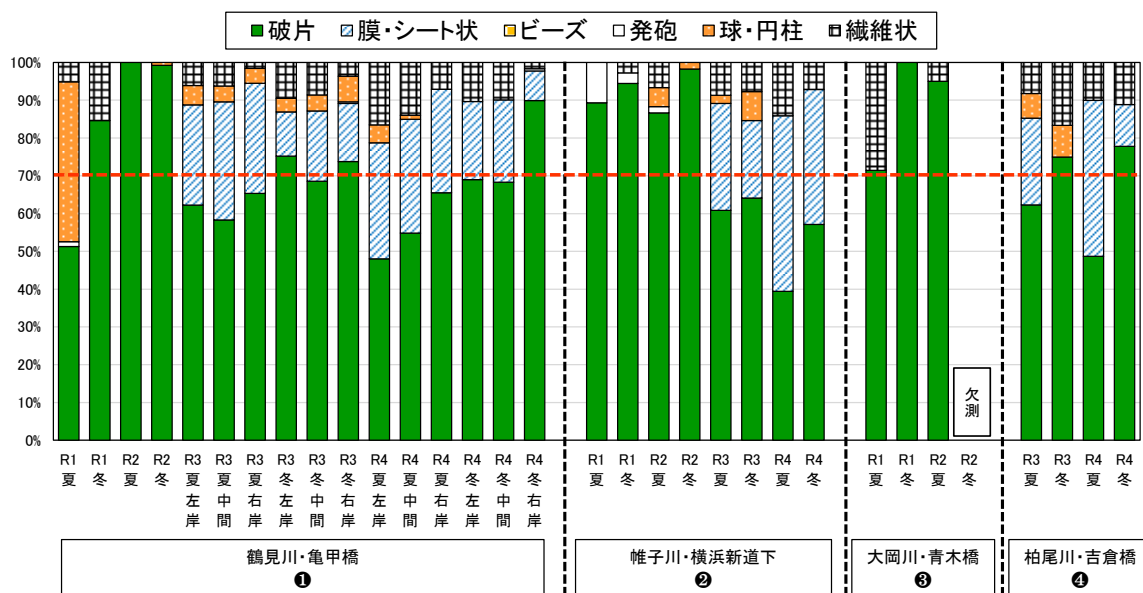


図3 形状別の割合

(注) R2 以前は「膜・シート状」は「破片」に含まれる。

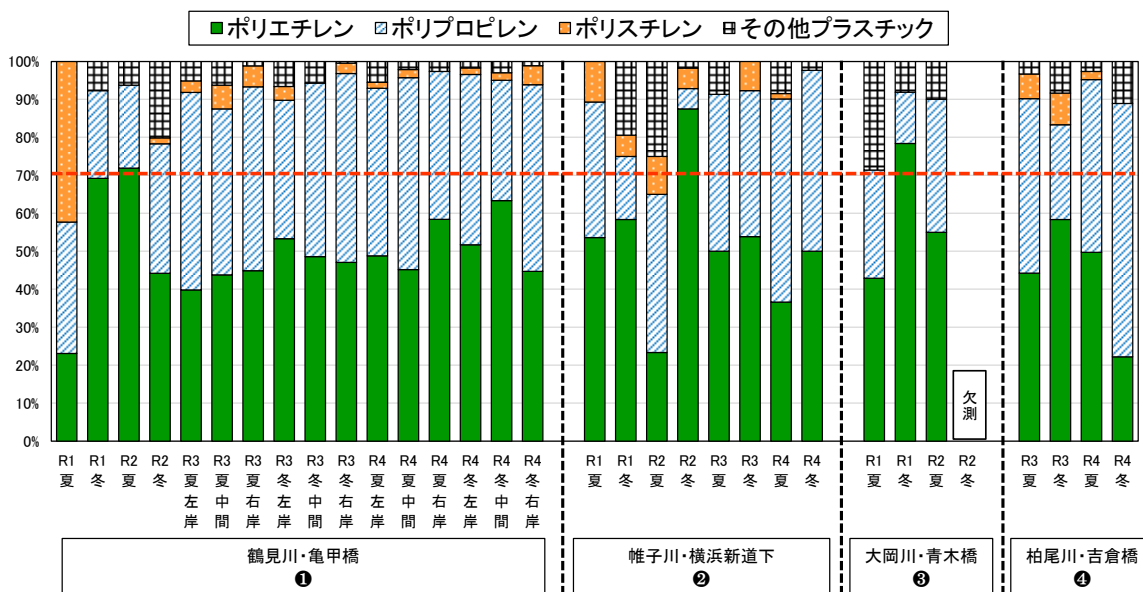


図4 材質別の割合

(3) 元のプラスチック製品の由来推定について

- ・採取されたマイクロプラスチックから元のプラスチック製品の由来を推定し、「人工芝」「発砲スチロール」「ポリスチレン（PS）粒子」「ペレット」「不明」に分類して集計した。
- ・5割以上が「不明」であった。
- ・すべての調査地点で「人工芝」と推定されるマイクロプラスチックが採取された。

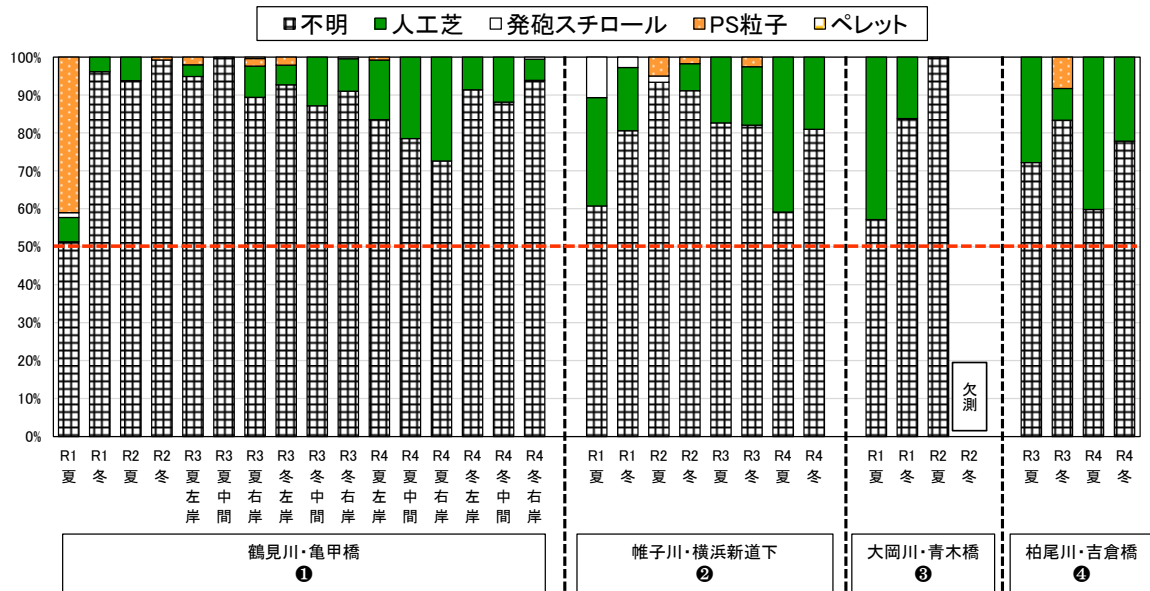


図 5 元のプラスチック製品の由来推定別の割合